

2016 CBR* in Philippines (2 weeks course) 研修報告



* CBR: Community based Rehabilitation

H22年度以降、フィリピンのアンヘルズ大学での Half & Half Program (新潟医療福祉大学主催) に、これまで本学から計10名の学生が参加しています。Half & Half Program は、アンヘルズ大学での英語の授業と病院見学などを組み合わせた春休み中の3週間の研修プログラムで、大学寮に滞在し、平日の午前中はELS classで英語の授業、午後は付属病院等の見学実習、現地の学生との交流機会、あるいはフリータイムを過ごすものです。そしてH28年度、新潟医療福祉大学が新たに地域リハ研修を目的としたフィリピンでの夏の海外CBR研修(2週間/4週間コース)を開催し、その2週間コースに本学学生(PT学科3年生)が1名参加しましたので、ご紹介します。来年度以降、参加してみたい人はPT学科教員・坂本 (sakamotoy@ipu.ac.jp) までお問い合わせください。

研修期間: 2016年8月12日~8月30日

研修地: Magalang, Pampanga, Philippines

参加目的:

私は前回(2015年3月)英語力の向上とフィリピンの医療現場の見学を目的としたHalf & Half programに参加し、様々な面で自分の成長を感じました。今回のCBR研修では、患者さんに近い距離で接することが出来ると聞き、より一層フィリピンの医療への理解深め、また自分の英語力のbrush-upが出来るとに魅力を感じ、2週間コースに参加を決めました。



Centerの学生たちと

CBR研修の1日の流れ:

7:00 起床, 8:00 CBR開始

AM: 患者さんがセンターに来たり, PT学生が患者さん宅を訪問し, 理学療法を行う

昼食: センターにてみんなでご飯を作り, みんなで食べて片付けをする(調理班, 片付け班)

PM: 患者さんが来なければ治療はなく, レポート作成(英語にて). 週に1度, 小児外来日あり.

17:00 CBR終了, リハ室の掃除



報告者:
理学療法学科3年
山田 奈津子



Discussion (患者さんや家族, PT, 学生が集まって話し合いをする)



近隣でのVital sign 測定



訪問リハの様子



小児の外来患者さん

<感想>

CBR研修では、実際に患者さんのお宅を訪問したり、Centerに来る患者さんの理学療法のお手伝いをしました。CBRはフィリピンのPT4年次学生が中心となり、患者さんの様態についてdiscussionをし、それに基づいてprogramを作成し、責任を持って治療を行っていたので、大変驚きました。また、フィリピンの学生は日本の学生とは異なり、勉強に対する意識がとても高かったです。自分がこうして大学に通い勉強できることは、日本では普通なことであっても、世界では特別で恵まれた環境にいることを実感し、今勉強できる環境に感謝をしなければならなかったと思います。このように新しい発見や、海外に滞在して改めて日本の良さに気づくことが出来た良い経験になりました。

また、前回の研修で仲良くなった現地の友達とも再会でき、嬉しかったです。他国に友達がいることは自分の中の大きな財産なので、今の友達との関わりを大事にしつつ、もっともっと色々な国のたくさんの人と交流したいと思います。そうすることで、自分の視野や考え方、人間力やコミュニケーション力の向上が図れると思いました。

そして…、シャワーは水しか出ず…お湯は出ないのにカエルは毎日出る…洗濯物は手洗い…トイレはバケツに水をためて流す…そんな日々を叫びながら笑って楽しみ、元気に帰国できたことで、私は自信と強靱な生命力を身につけました。



上: 飲み会(笑)

左上: 学生が分担して作る昼食(この日はフィリピンの伝統料理)

左下: ボーリング

この研修では、コミュニケーション能力、語学力、行動力、向上心が身につく、視野を拡げることができます。また日本では味わうことができない安くて美味しいマンゴーがあなたを待ってます!

(PT学科3年 山田 奈津子)

